

柏市の子育てを取り巻く現状と課題

～第一期計画の課題の視点から～

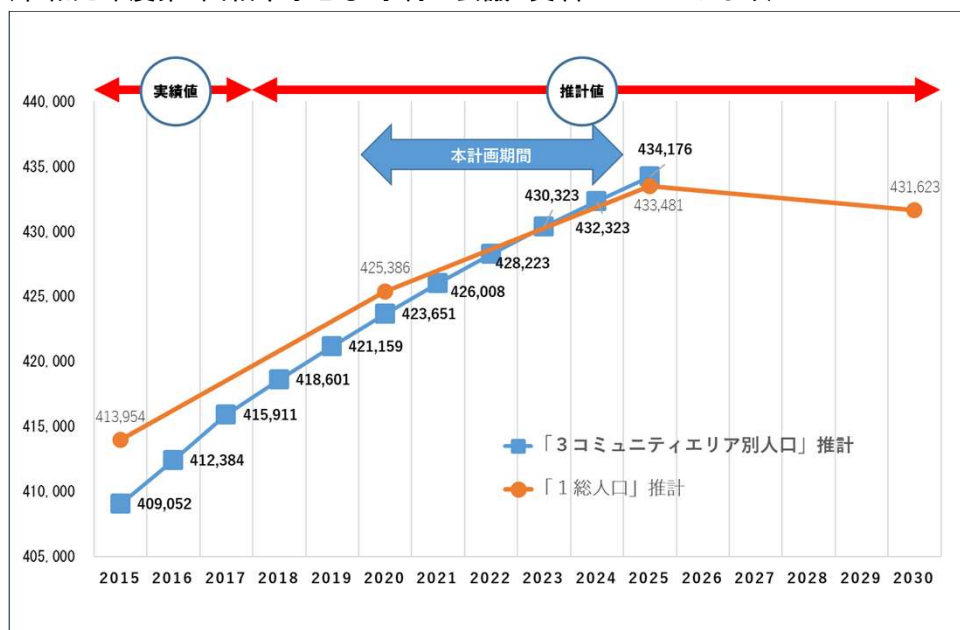
令和元年度第3回柏市子ども・子育て会議

(令和元年9月4日)

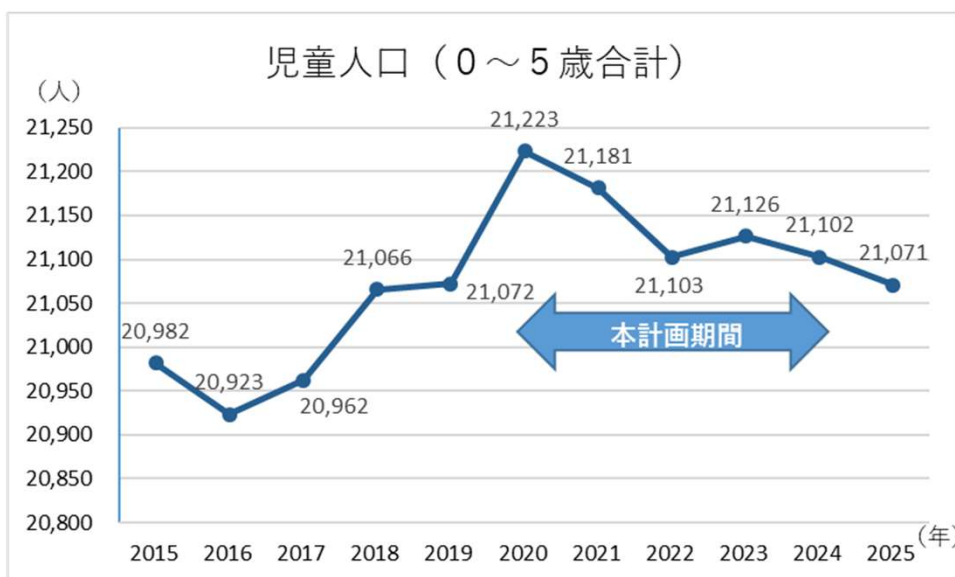
1 人口等の状況 ■課題 ①遊びの機会の減少 ②地域の重要性

1 総人口は、計画期間中は増加する

(令和元年度第1回柏市子ども・子育て会議 資料1 3ページより)

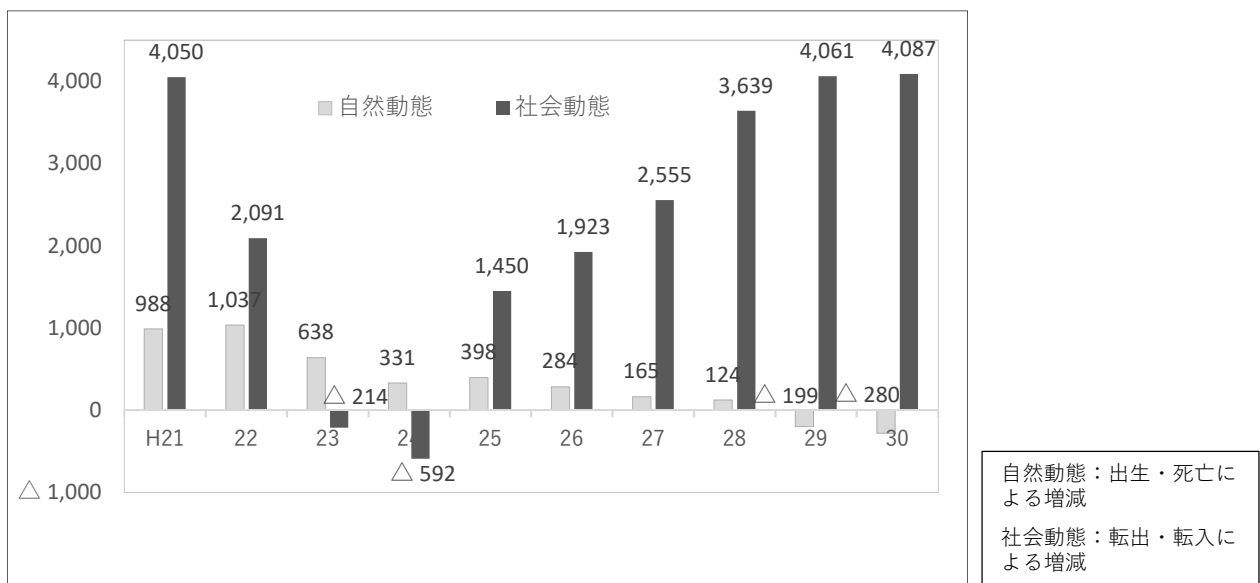


2 児童(0～5歳)人口は横ばいながら令和2(2020)年をピークとして年々ゆるやかに減少する見込み (令和元年度第1回柏市子ども・子育て会議 資料1 4ページより)

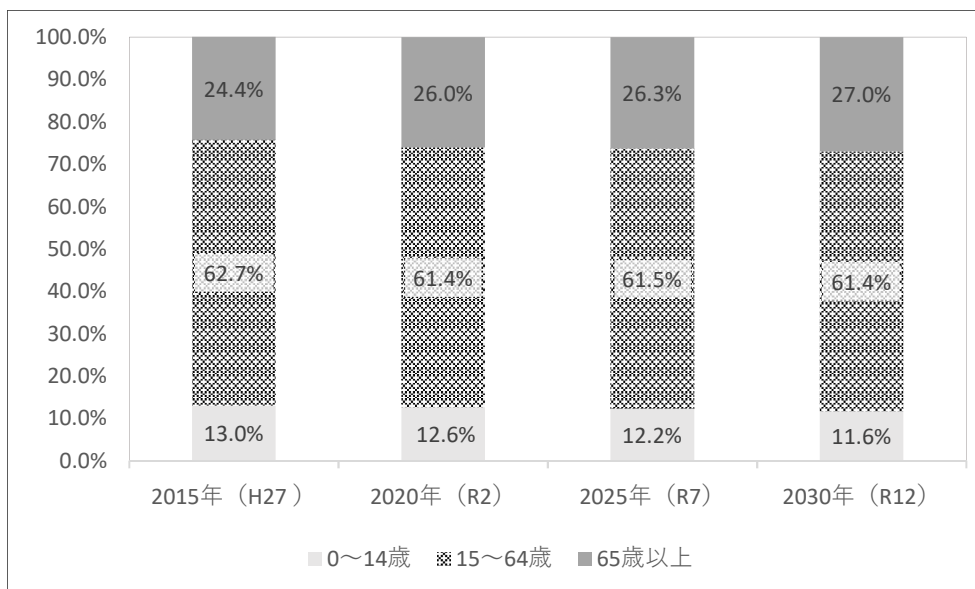


1 人口等の状況

3 出生数を死亡数が上回るが、今後しばらくは転入などによる流入人口により総人口が増加する
 (資料:「柏市統計書(平成30年版)」)



4 年少人口(0～14歳)の割合が減少する一方で、老年人口(65歳以上)の割合が増加する。
 (資料:「柏市の将来人口推計」2018年4月)

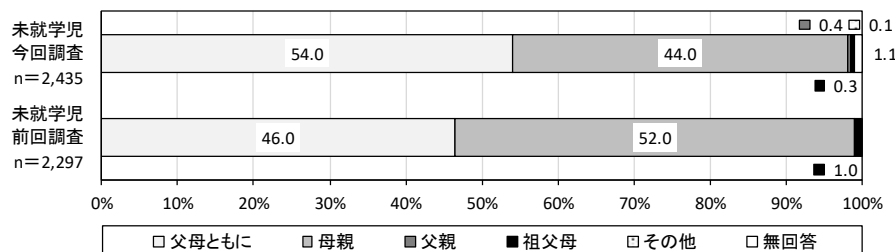


2 子ども・子育ての状況 ■課題 ③子育ての孤立化 ④子育てに係る不安や負担

1. 家族・親族・知人の子育てへの関わり

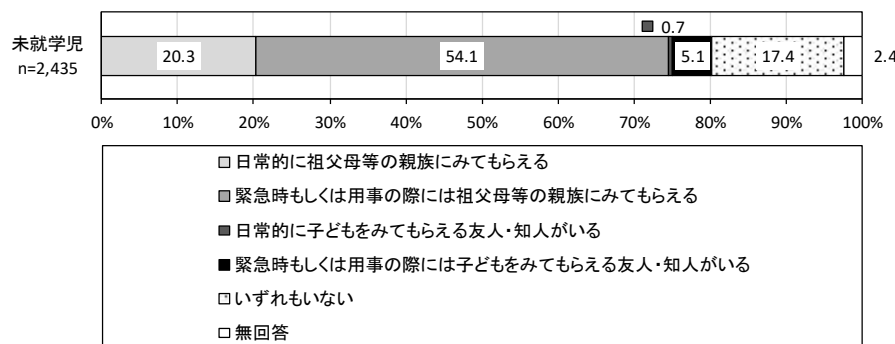
資料出所：「柏市子ども・子育てに関するニーズ調査」平成31年3月

【子育てを主に行っているのはどなたですか】



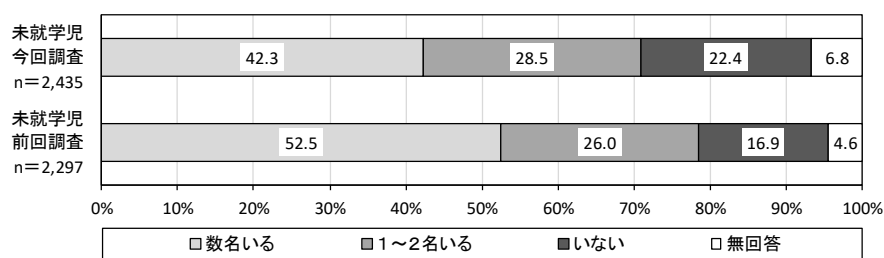
前回調査と比べて「父母ともに」が8ポイント増加、「母親」が8ポイント減少しており、半数以上の家庭が父母ともに子育てを担っており、父親の子育て参加が進んでいる状況が伺える。

【日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。】



親族や知人に「日常的にみてもらえる」「緊急時にはみてもらえる」合わせて80.2%と高い傾向だが、「いずれもない」が17.4%と、2割弱の方が緊急時に親族・知人以外を頼らざるを得ない状況にある。

【親子でいっしょに過ごす子育て仲間はいませんか】

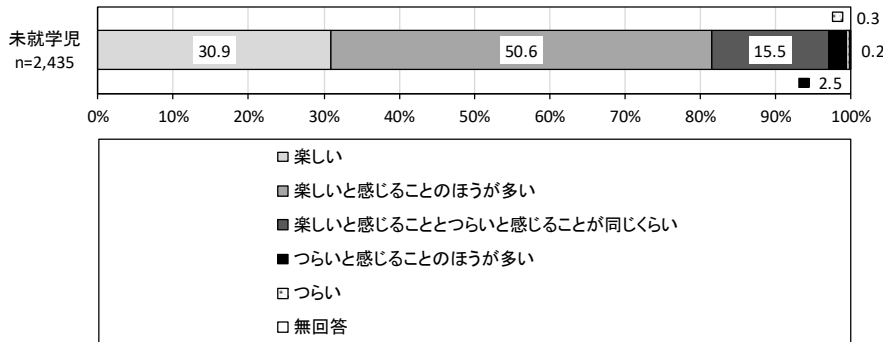


「数名」「1～2名」合わせて「いる」人が7.7ポイント減少、「いない」は5.5ポイント増加しており、子育て仲間がいない人が増えている傾向にある。転入者が多い傾向にあることや保育園への早期の入園などが理由として考えられる。

2 子ども・子育ての状況

2. 子育ての悩み・不安とその対応状況

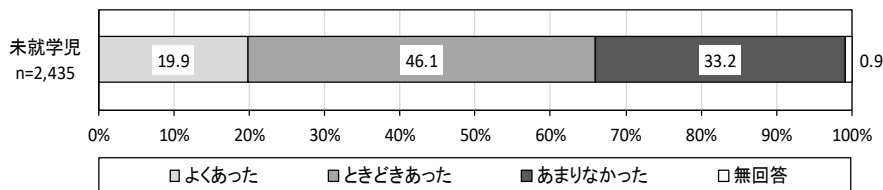
【子育ては楽しいですか】



資料出所：「柏市子ども・子育てに関するニーズ調査」平成31年3月

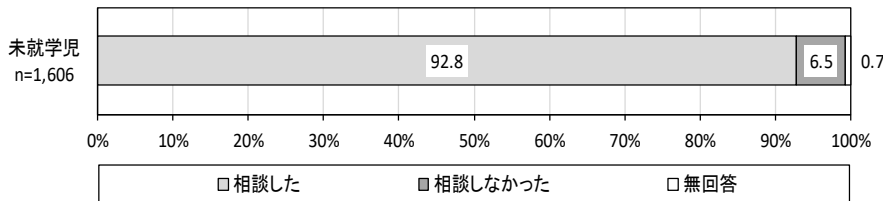
子育てが「楽しい」「楽しいと感じることのほうが多い」が81.5%と8割を超える。「つらい」「つらいと感じることのほうが多い」合わせると2.8%。
 (参考)平成30年10月1日現在0～5歳人口21,119人×2.8%≒591人

【お子さんの子育てのことで今まで心配や悩みがありましたか。】



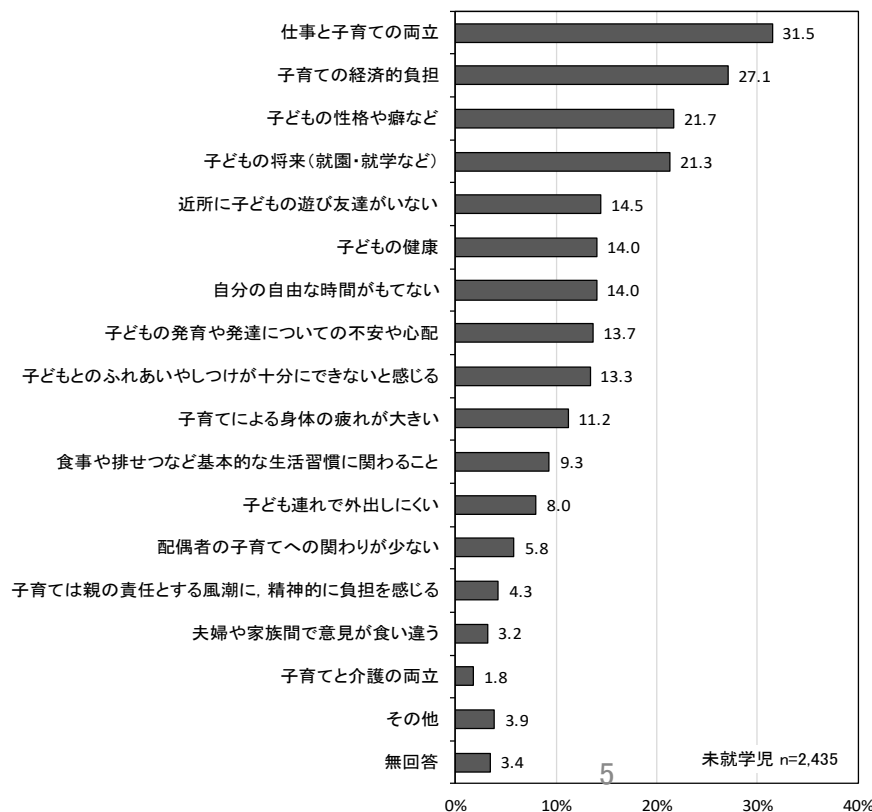
「よくあった」「ときどきあった」が66%と多くの方が心配や悩みを抱える状況にある。

【心配や悩みを誰かに相談しましたか。(「よくあった」「ときどきあった」のみ回答)】



ほとんどの人が心配や悩みを相談できる状況にあると考えられるが、6.5%の人が「相談しなかった」と回答している。

【あて名のお子さんの子育てにおいて、どのような心配や悩みがありますか(3つまで○)】

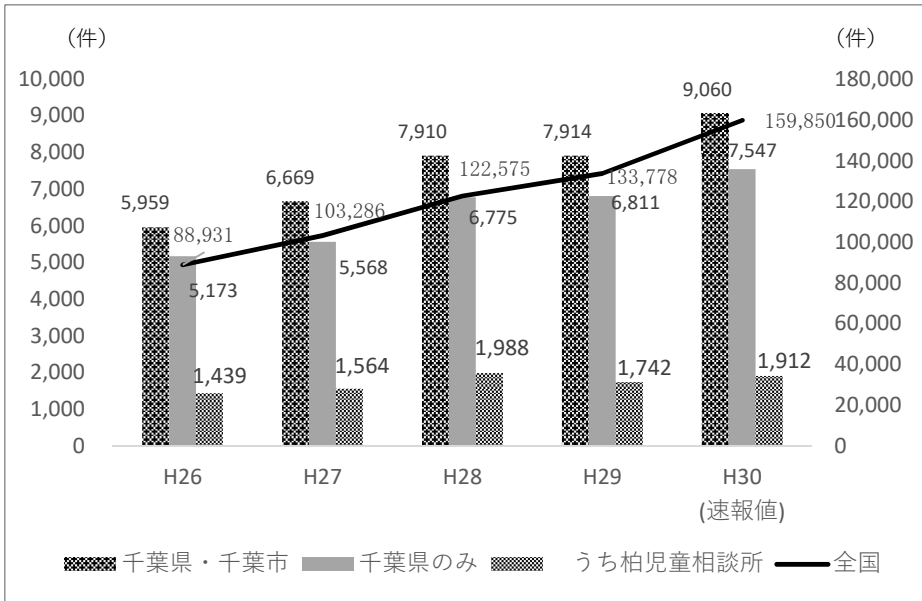


- 「仕事と子育ての両立」に悩む親がおよそ3分の1と大きな割合を占めた。年齢区分別(0歳児, 1～2歳児, 3歳以上)で見ると0歳児では43.1%とより大きな割合を占める。復帰にあたっての保育園等の入園についてなのか、復帰後の両立についてなのかなど自由意見欄等により分析が必要である。
- 「子育ての経済的な負担」も割合が大きいが、教育・保育の無償化による動向を今後も見ていく必要がある。

2 子ども・子育ての状況

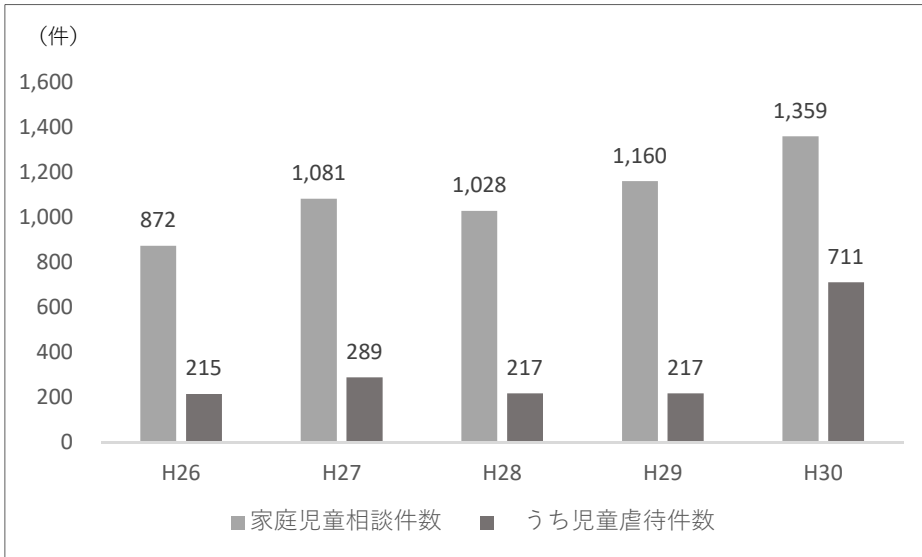
3. 児童虐待に関する状況

【全国・千葉県・柏児童相談所管内の児童虐待相談対応件数の推移】（資料：こども福祉課）



全国・千葉県内いずれにおいても増加の傾向が著しい。千葉県で設置している柏児童相談所は、松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市を担当区域としている。

【家庭児童相談の相談対応件数の推移】（資料：こども福祉課）

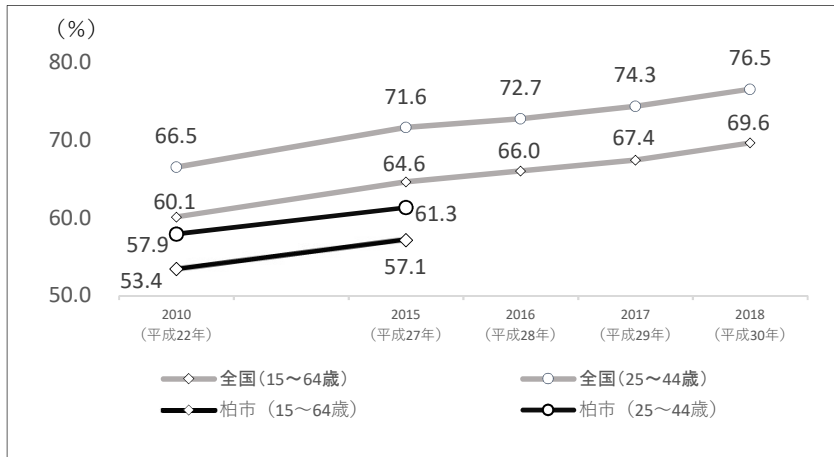


相談対応件数は増加の傾向にある。また、平成30年度から、児童相談所等への通告による市への住基照会件数(352件)も含めているため大幅に件数が増加している。

2 子ども・子育ての状況 ■課題 ⑤保育需要の増大

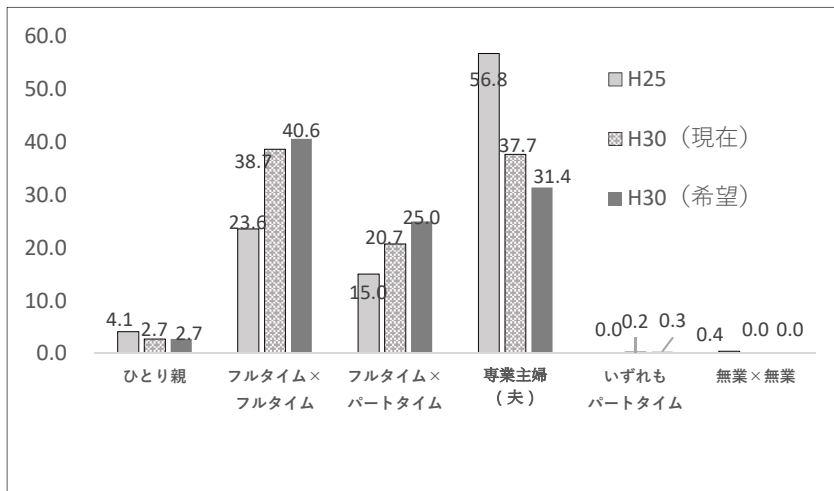
4. 共働き世帯の増加, 就労意向の状況

【女性就業率の推移（資料：全国「労働力調査（総務省統計局）」 柏市「国勢調査」）】



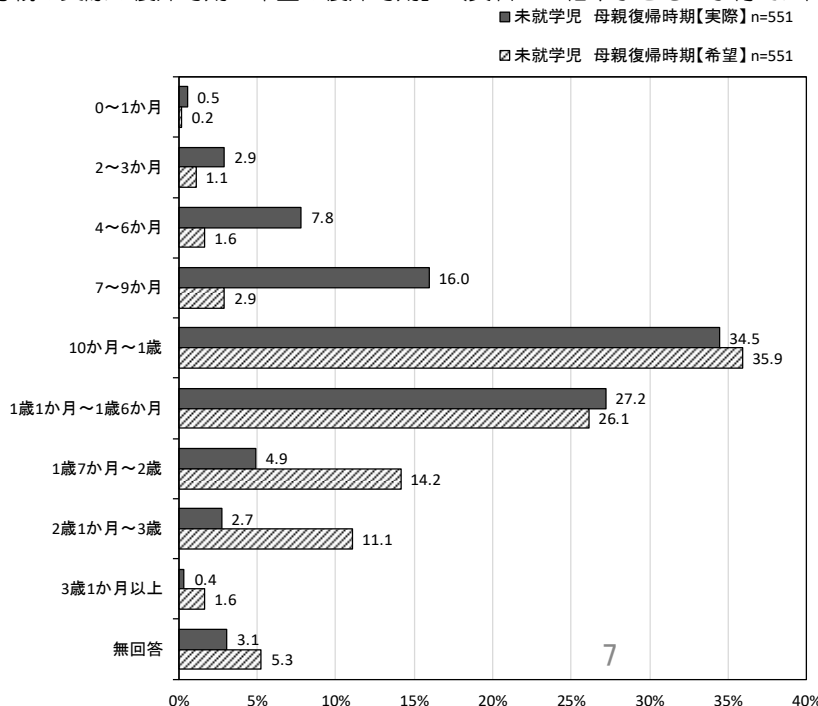
柏市の女性就業率は25~44歳の子育て世代では、全国より10ポイントほど低い水準ながら、上昇傾向にあり、今後も上昇していくことが予想される。*柏市の数値は5年ごとに行われる国勢調査で調査されるため、平成28年以降のデータはない。

【保護者の就労状況と希望】（資料：「柏市子ども・子育てに関するニーズ調査」平成31年3月）



ニーズ調査によると、平成25年調査時と比較して、専業主婦(夫)世帯が19.1%減少し、フルタイム・パートタイム含めた共働き世帯が20.8%上昇している。また、今回調査での今後の希望においてもその傾向が強まる結果となっており、保育需要の増大が予想される。

【母親の実際の復帰時期・希望の復帰時期】（資料：「柏市子ども・子育てに関するニーズ調査」平成31年3月）



実際では、10か月~1歳6か月ごろに復帰する人が半数以上だが、全体に多くの方が希望よりも早く復帰している。後の設問「希望の時期に職場に復帰しなかった理由」では、母親については「希望する保育園に入るため」が75.1%と、保育園に入るために母親が復帰時期を早めている傾向がみられる。

2 子ども・子育ての状況 ■課題 ⑥乳幼児期の教育・保育の質の確保・向上 その他

5. 配慮すべきニーズ

基本指針(教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の整備並びに子ども・子育て支援給付並びに地域子ども・子育て支援事業及び仕事・子育て両立支援事業の円滑な実施を確保するための基本的な指針)の**改正(案)**

・障害児

障害児福祉計画について、市の計画策定にあたって調和を保つべき計画として明記すること。

・外国につながる子ども

海外から帰国した幼児や外国人幼児、両親が国際結婚の幼児などの外国につながる幼児が円滑な教育・保育等の利用ができるよう、市は保護者及び教育・保育施設等に対し必要な支援を行うこと。事業者等は、運営等にあたり円滑な受け入れに資するような配慮を行うことが望ましいこと。

・医療的ケア児

医療的ケアが必要な児童の支援のための総合的な支援体制の構築等について、市の計画の任意的記載事項に追加すること。

・子育てと介護の負担(ダブルケア)

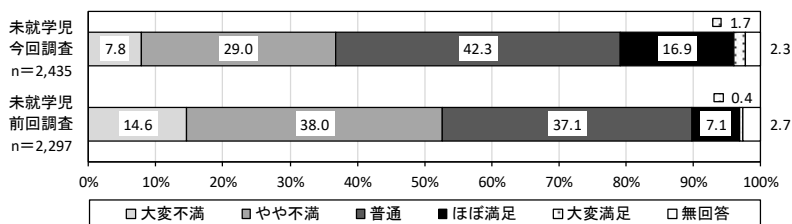
ダブルケアをする人は全国でおおよそ25万3千人(2016年4月内閣府調査)。年齢別では、30～40代が80%を占めているといわれている。今回のニーズ調査では、「どのような心配や悩みがあるか」の設問に、1.8%が「子育てと介護の両立」を選択している。

6. 自由意見欄の傾向

⇒ 『資料3 ニーズ調査の自由意見欄について』を参照

7. 子育て施策に係る満足度

【柏市での子育ての環境や支援への満足度】(資料:「柏市子ども・子育てに関するニーズ調査」平成31年3月)

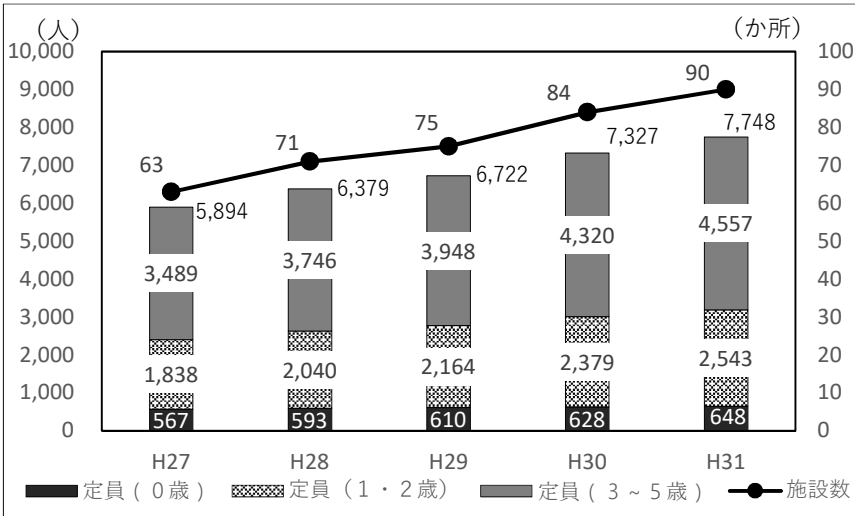


平成25年調査時と比較して、「ほぼ満足」「大変満足」が44.2%→59.2%、「やや不満」「大変不満」が52.6%→36.8%と満足度は全体で上がっているが、まだ3割以上の方が不満を感じている状況。

3 子育て支援に係る取組みの状況

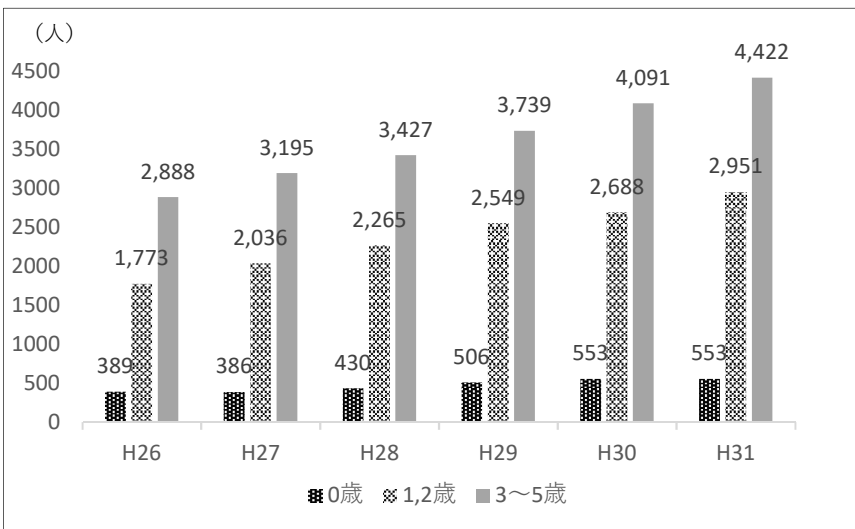
1. 認定こども園・保育園等の整備状況と利用状況

■認可施設の施設数と定員数の推移（整備の状況）（資料：保育整備課）



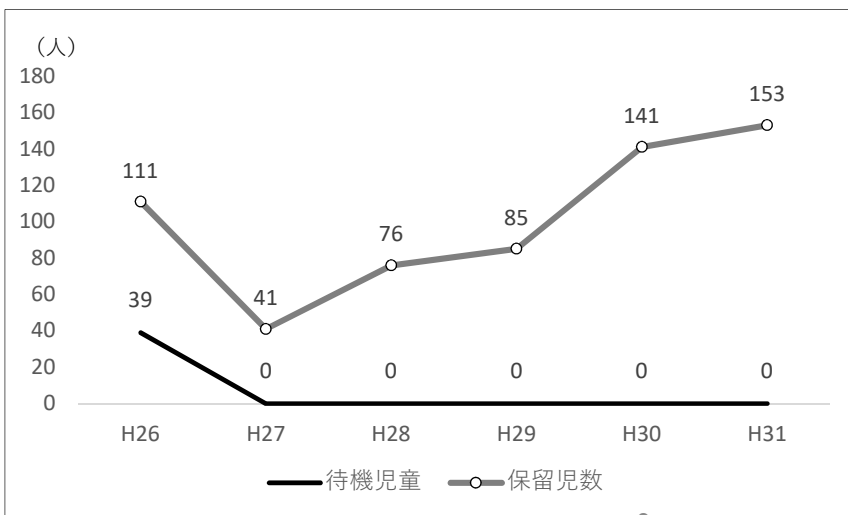
- ・認定こども園
- ・公立保育園
- ・私立認可保育園
- ・特定地域型保育事業（小規模A, 事業所内保育）

■認可施設の利用者数（資料：保育運営課）



各年4月1日現在の2号児（3～5歳）・3号児（0～2歳）の入園児童数

■国基準待機児童数と入園保留児童数の推移（資料：保育運営課）



国基準の待機児童数（各年4月1日現在）はH27から0を達成しているものの、入所保留児童数が年を追って増加している。

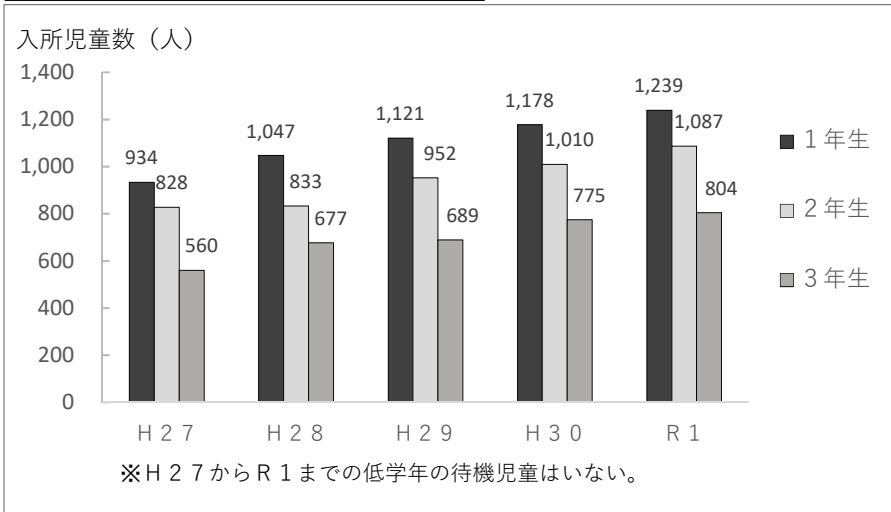
※国基準待機児童数とは：入所申込があり入所要件に該当しているが、入所していない児童の数。入所予約（入所希望日が調査日より後のもの）や入所可能な保育所があるが特定の保育所を希望し待機している場合などを除く。

※入園保留児童数とは：認可保育園等への入園が保留になっている児童の数

3 子育て支援に係る取組みの状況

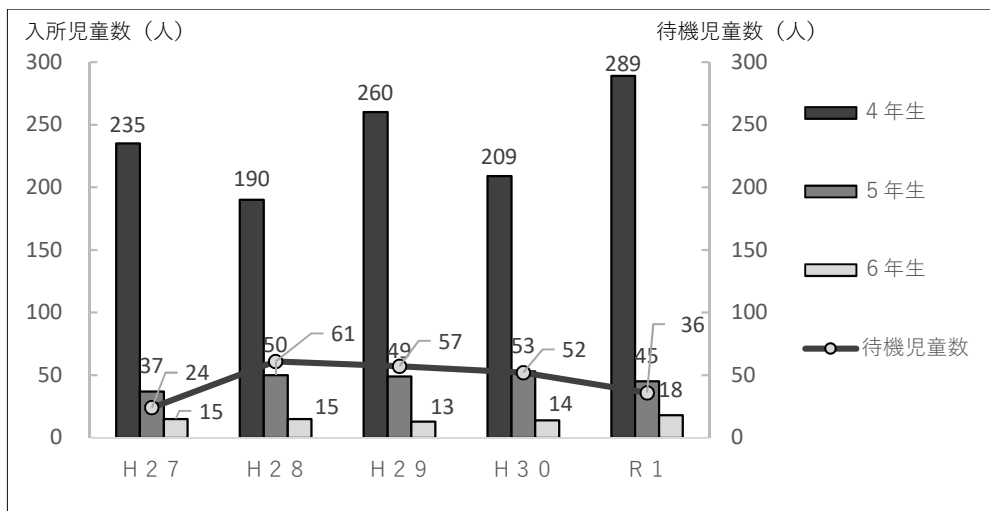
2. こどもルーム(学童保育)の整備状況と入所状況

■入所児童数と待機児童数の推移(低学年) (資料:学童保育課)

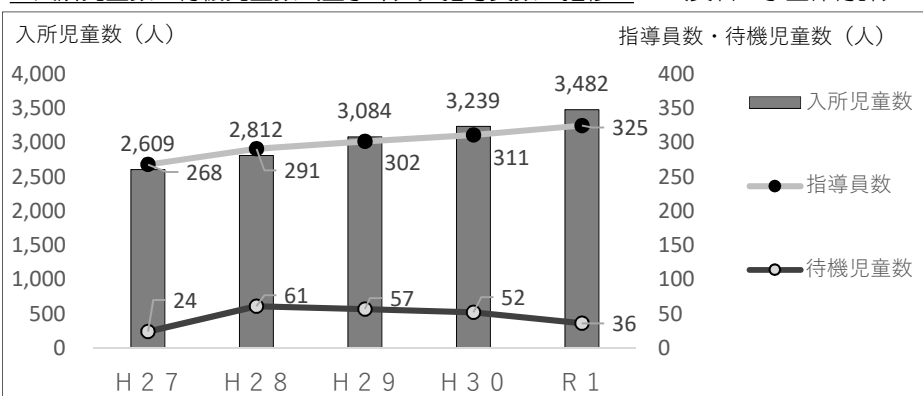


こどもルーム：昼間家庭に保育する人がいない小学生の児童を預かり保育する施設。こどもルームは柏市独自の名称で、一般的には学童保育、国の事業名は放課後児童健全育成事業という。保育ニーズの増加に対応して各小学校区への整備を進め、平成31年に全小学校に設置を完了。今後も小学校ごとのニーズに応じて保育室の増設等を進める。

■入所児童数と待機児童数の推移(高学年) (資料:学童保育課)



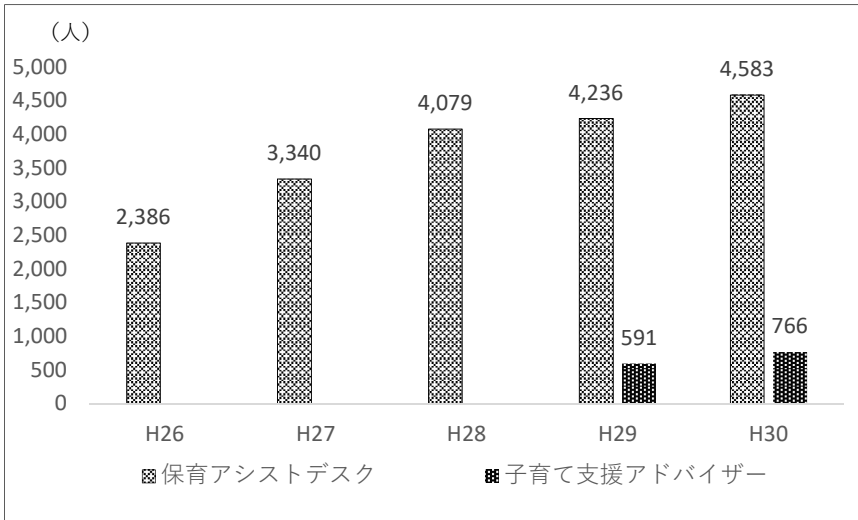
■入所児童数・待機児童数(全学年), 指導員数の推移 (資料:学童保育課)



3 子育て支援に係る取組みの状況

3. 利用者支援事業の整備状況と利用状況

■各型別整備の状況との相談件数の推移 (資料：保育運営課・子育て支援課)



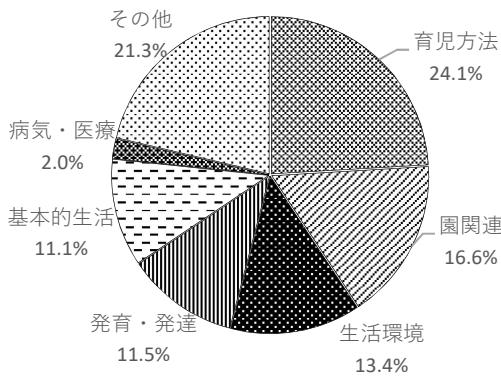
利用者支援事業：子どもと保護者、妊娠している方が保育園などの施設や地域の子育て支援事業などを円滑に利用できるよう、身近な場所で情報提供や相談を行うとともに、関係機関との連絡調整をして支援する事業。

保育アシストデスク（特定型）：各家庭のニーズや状況にあった保育サービスを中心とした情報を保育士や看護師が案内します。相談窓口のほか、専用相談電話（保育アシストコール）もあります。現在、市役所保育運営課に1か所設置。

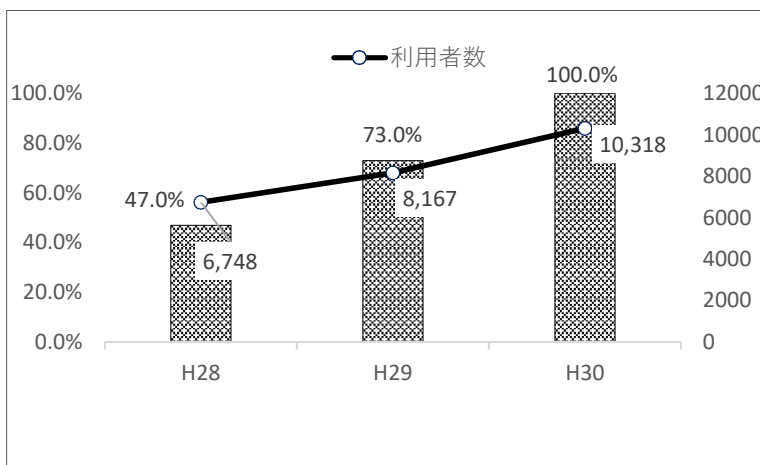
子育て支援アドバイザー（基本型）：子育ての困りごとや悩みを聴き、家庭の状況や希望に合った支援サービスや窓口を案内します。現在はぐはぐひろば沼南に1か所配置。

妊娠子育て相談センター（母子保健型）：妊娠、出産、育児期を健やかに過ごせるよう、保健師や助産師が相談に応じます。現在、市内4か所に設置。

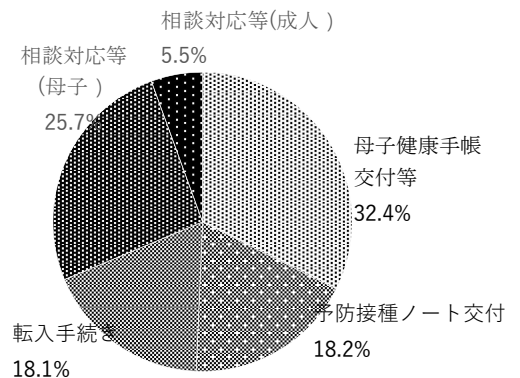
■子育て支援アドバイザー相談内容（H30） (資料：子育て支援課)



■妊娠子育て相談センターの妊娠届出時の専門職による面談率と利用者数 (資料：地域保健課)



■妊娠子育て相談センター利用目的（H30） (資料：地域保健課)

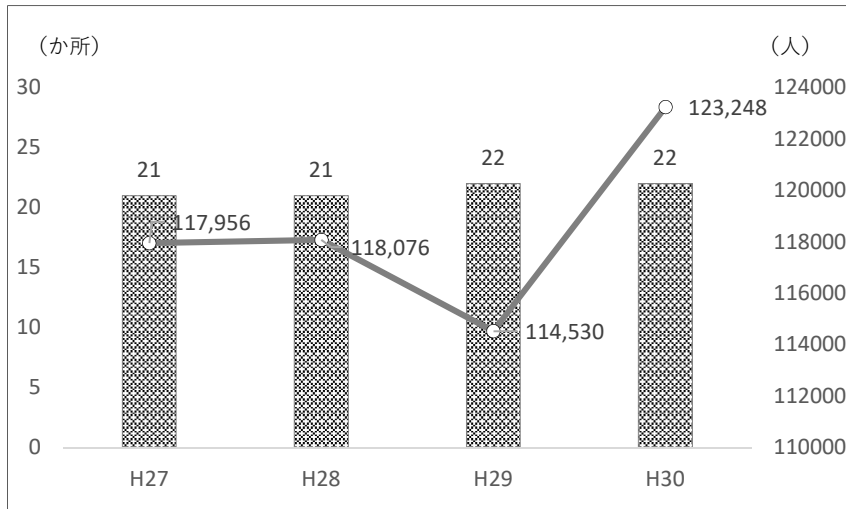


3 子育て支援に係る取組みの状況

4. 地域子育て支援拠点の整備・利用状況

■拠点数（保育園併設・はぐはぐひろば）・利用者数の推移（H26～30）

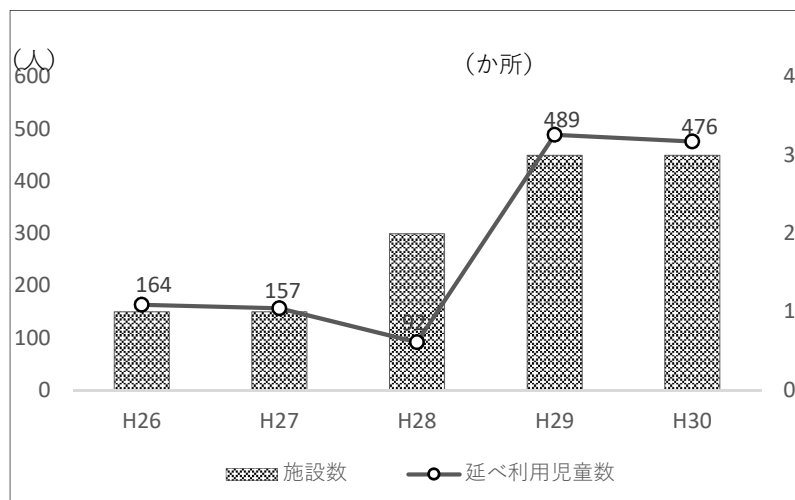
（資料：子育て支援課）



地域子育て支援拠点：乳幼児の親子を対象に、交流や育児相談・情報提供・育児講座を実施する事業。平成30年時点で柏市内では、認定こども園・保育園に併設されている「地域子育て支援センター」や児童センター内で実施するもの、単独型のひろば「はぐはぐひろば」がある。

5. 病児・病後児保育の整備・利用状況

■病児・病後児保育施設整備の状況と利用件数の推移（資料：保育運営課）

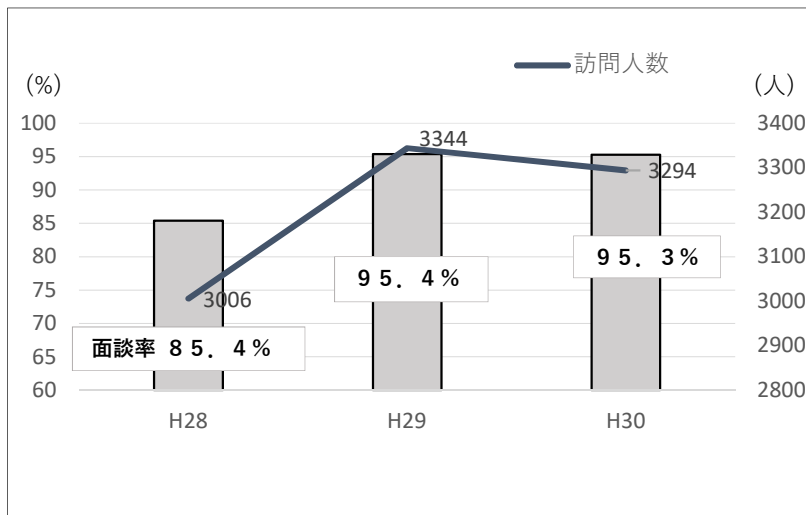


病児・病後児保育：病児・病後児保育事業：児童の疾病などのために保育園等に預けられない場合で、保護者が就労などにより家庭において保育を行うことが困難なときに、保育を行う事業。

各地域に1施設を設置したが、平成31年3月に1か所閉室となり、現在は2か所を実施。

6. 乳児家庭全戸訪問の実施状況

■乳児家庭全戸訪問事業の訪問件数（資料：地域保健課）

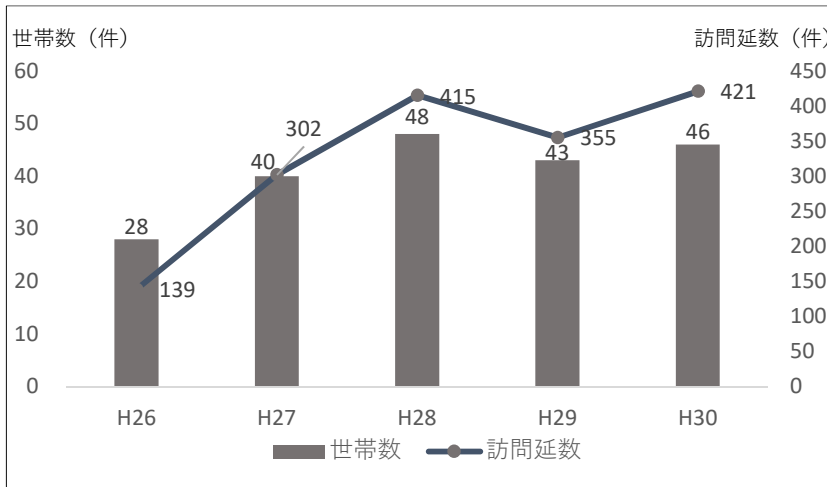


乳児家庭全戸訪問事業：原則として全ての乳児のいる家庭を訪問することにより、子育てに関する情報の提供並びに乳児及びその保護者の心身の状況及び養育環境の把握を行う事業。専門職（保健師・助産師・看護師）による訪問により支援が必要な家庭の早期発見・早期支援へつないでいる。

3 子育て支援に係る取組みの状況

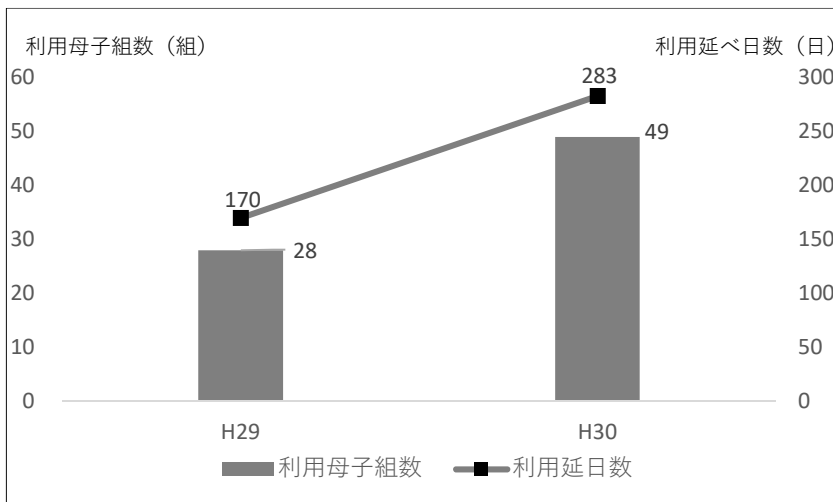
7. 養育支援訪問事業等の実施状況

■養育支援訪問事業の訪問件数 (資料：こども福祉課)



養育支援訪問事業：養育を支援することが特に必要であると判断した家庭に対し、適切な養育が行われるよう、その居宅を訪問し、養育に関する指導、助言等を行う事業
 専門職（保健師・保育士・助産師）により訪問。※延数は1回の訪問できょうだい2人を支援した場合は、「2」で計上

■産後ケア事業の実施件数 (資料：こども福祉課)



産後ケア事業：家族などからの産後の援助が受けられず、育児支援を特に必要とする母子を対象に、医療機関等において、心身のケアや育児のサポート等のきめ細かい支援や産婦に休養の機会を提供する事業。
 ※平成29年8月から事業開始